

## アスファルトプラント火入れ

大成ロテック・新東名の  
伊勢原北～秦野IC舗装

NEXCO中日本が発注した「新東名高速道路伊勢原北IC～秦野IC間舗装工事」の施工を担当する大成ロテックは、神奈川県秦野市の現地でアスファルトプラントの火入れ式を16日に開いた。写真。上村信一NEXCO中日本東京支社秦野工事事務所長、高橋昌和秦野市長、高山松太郎伊勢原市長、圓角隆大



成ロテック代表取締役専務執行役員生産技術本部長ら55人が出席した。

式典後のあいさつで上村所長は、施工に当たる大成ロテックに対して「技術者として、今後も最大の智慧と工夫を

発揮して新東名高速道路に最新の技術を投入してほしい」と呼び掛けた。圓角本部長は「高品質な高速道路を安全に建設するため、長年培ってきた技術力と施工ノウハウを用いるとともにICTなどの新技術も積極的に活用し、現場・本社が一体となり万全の体制で臨んでいく」と述べた。大成ロテックは、新東名高速道路の伊勢原大山IC～秦野IC間と秦野IC・国道246号を接続するランプの舗装、防護柵の施工を担当している。工事の総延長は2万6748㍍で、うち土工延長は本線部7002㍍、ランプ部

8732㍍、橋梁延長は4866㍍、ランプ部353㍍、トンネル延長は1万4880㍍となっている。

設置したプラントは1時間当たり180トンの製造能力を持ち、同工事で使用するアスファルト合材8万7000トンの製造を担う。開通は2021年度内が目標。今後、舗装や標識、情報板、照明などの道路施設工事が本格化していく。